

大田区 男女共同参画に関する意識調査 報告書

【概要版】

1 調査について

「大田区 男女共同参画に関する意識調査」は、男女共同参画や男女平等に対する区民の意識や実態を把握することを目的として実施した。本概要版は、同調査の結果をまとめた「大田区 男女共同参画に関する意識調査 報告書」の内容を抜粋したものである。

実施概要	調査項目
○対象 大田区に住民基本台帳登録をする20歳以上の区民	○基本属性
○対象者数 2,000名(住民基本台帳から層化二段無作為抽出)	○職業について
○調査方法 郵送配布・郵送回収	○家庭生活・子育てについて
○有効回収率 34.9%(697件)	○ワーク・ライフ・バランスについて
【男性274名、女性414名、その他5名、無回答4名】	○人権について
○実施時期 令和元年11月13日～令和元年11月27日	○地域活動について
	○男女共同参画の取り組みについて

※グラフは男性・女性のみとする。複数の選択肢を選ぶ設問では全体での集計結果のおおむね上位5位を抜粋して掲載する。

2 回答者について

■性別※1

	男性	女性	その他	無回答
全体	39.3%	59.4%	0.7%	0.6%

■年代

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
男性	8.8%	14.6%	15.7%	17.2%	18.6%	25.2%	0.0%
女性	9.7%	13.8%	21.7%	19.1%	15.5%	20.0%	0.2%

■結婚状況

	未婚	既婚	離別	死別	無回答
男性	20.4%	70.8%	4.7%	4.0%	0.0%
女性	20.5%	62.8%	7.2%	9.2%	0.2%

■共働きの状況 ※既婚と回答した458人が対象

	共に職業に就いている	どちらか一方が職業に就いている	どちらも職業に就いていない	無回答
男性	54.6%	21.6%	22.2%	1.5%
女性	60.4%	26.2%	13.1%	0.4%

■子どもの年齢 ※子どもがいると回答した295人が対象

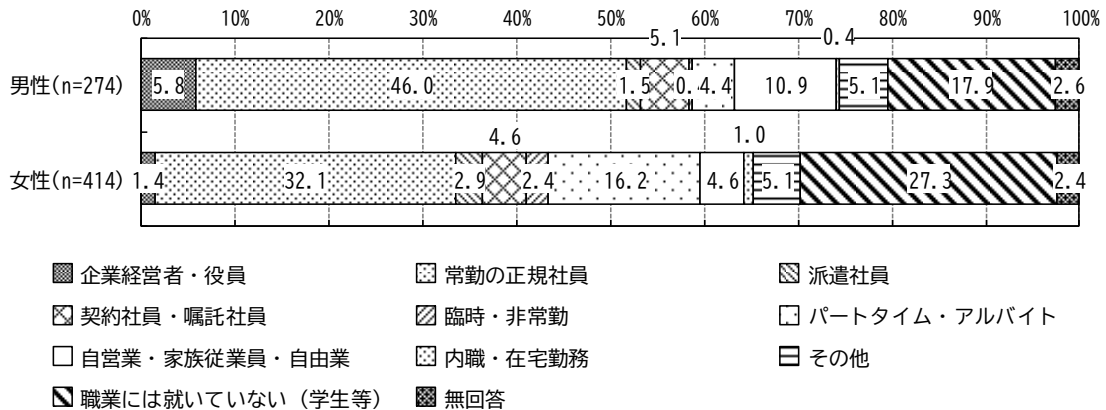
	1歳未満	1歳以上、3歳未満	3歳以上、小学校入学前	小学生	中学生	高校生相当または、それ以上	無回答
男性	10.9%	5.0%	13.9%	19.8%	10.9%	51.5%	5.9%
女性	3.6%	7.8%	15.5%	19.7%	15.5%	64.8%	0.5%

※1 本調査では、性の多様性を考慮し、「その他」という選択肢を設けたが、回答者数が少ないため以後の分析では男女のみを対象とする。

3 職業について

(1) 職業

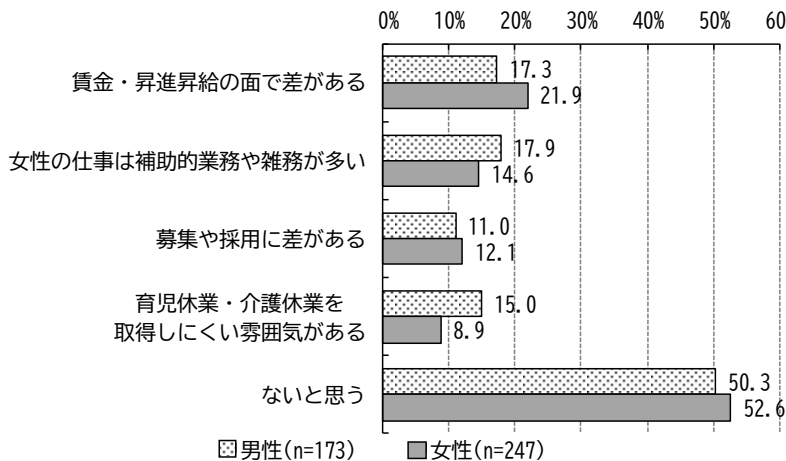
問1 現在、あなたの職業は次のうちどれですか。主な職業をお答えください。【○は1つ】



男性に比べて女性の方が非正規雇用で働く傾向がみられる。また前回調査と比べても女性の非正規雇用は増加している。近年の非正規雇用の増加が表れていると考えられる。

(2) 職場における男女差別

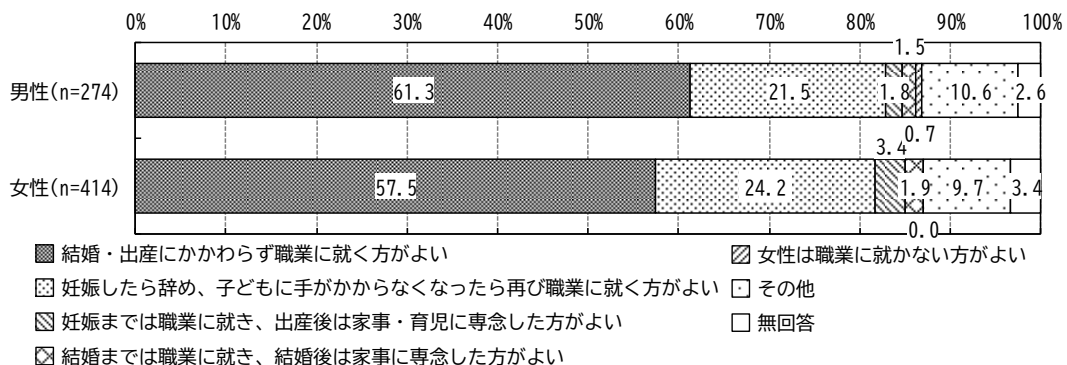
問1-2 (何らかの職業に就いている422人が回答) あなたの職場では、男女差別があると思いますか。具体的な内容についてお答えください。【○はいくつでも】



職場における男女差別は、男性・女性ともに実感されている。男性では成果を求められがちである一方、女性では賃金やキャリアにおいて差別があると感じている。また、男性において育児休業等の取りにくさを感じている点は、育児休業・介護休業の取得意向を持つ人が一定数いるとも推察される。

(3) 女性が職業に就くことに対する考え方

問2 女性が職業に就くことについて、あなたはどのようにお考えですか。【○は1つ】

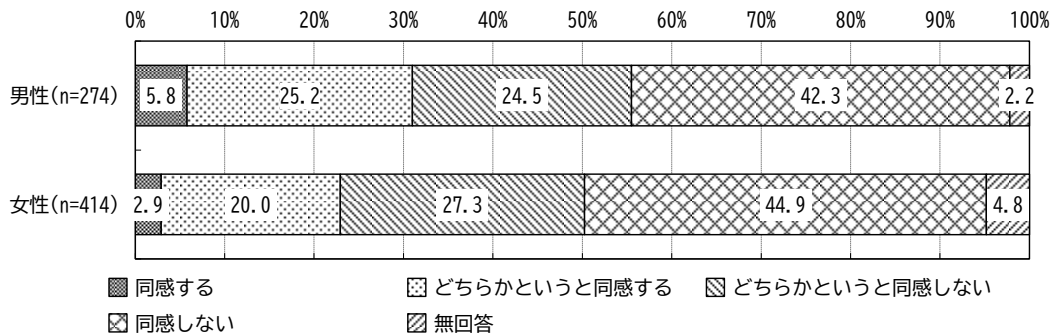


性別や年代等にかかわらず、女性が働き続けることについて肯定的である。

4 家庭生活・子育てについて

(1)「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」という考え方について

問7(ア) あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」という考え方について、どう思いますか。【〇は1つ】

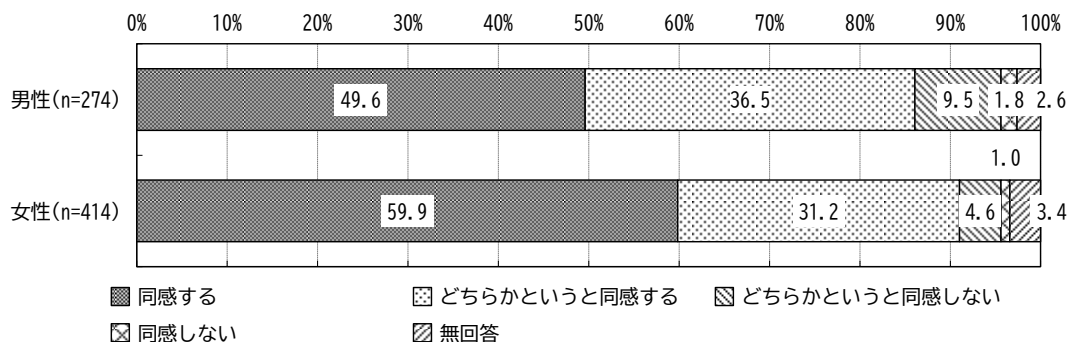


固定的性別役割分担について同感する人が少ないものの、男性で3割台、女性で2割台は同感している。

(2)家事分担の理想・現実

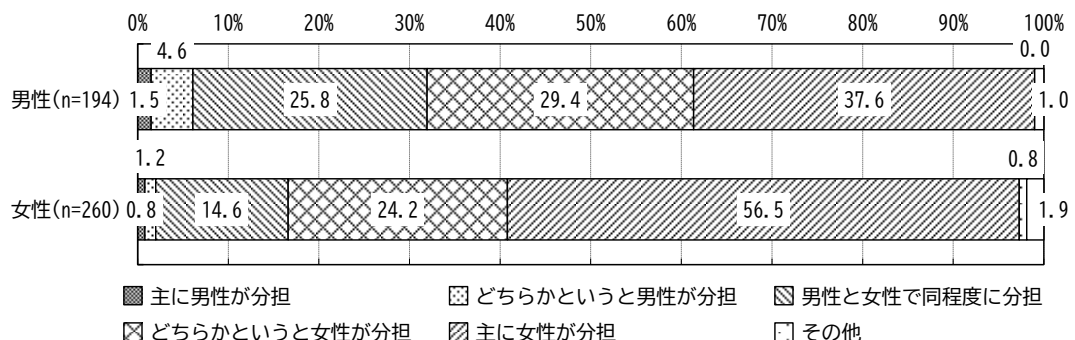
■理想

問7(イ) あなたは、「家事は夫婦で分担するべきだ」という考え方について、どう思いますか。【〇は1つ】



■現実

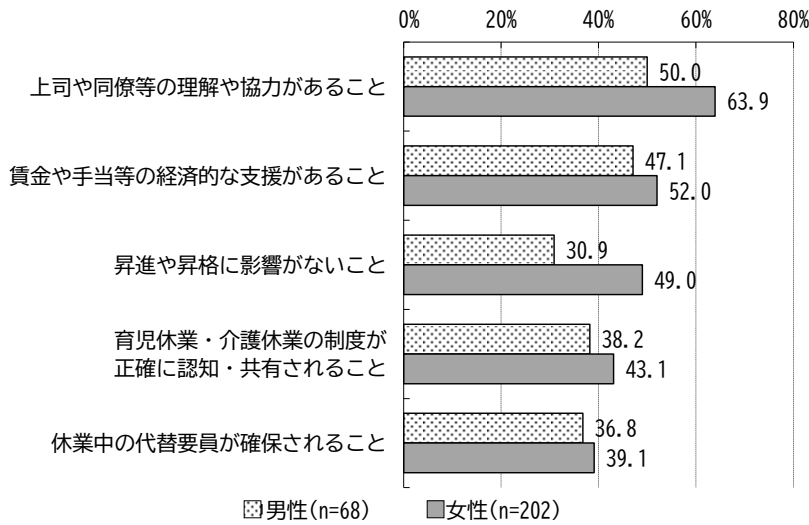
問8(ア) (既婚(事実婚を含む)である458人が回答)あなたのご家庭では、家事に関する配偶者・パートナーとの分担はどのようになっていますか。【項目ごとに〇は1つ】



夫婦で家事を分担することを理想としており、その意識は一定程度浸透していることが伺える。しかし、実態は女性が負担している。

(3) 育児休業・介護休業取得のための条件

問9-2 育児・介護休業を取得した方がよいと思うが、現実的には休めないと思う274人が回答。具体的にどのような条件が整えば、取得できると思いますか。【〇はいくつでも】



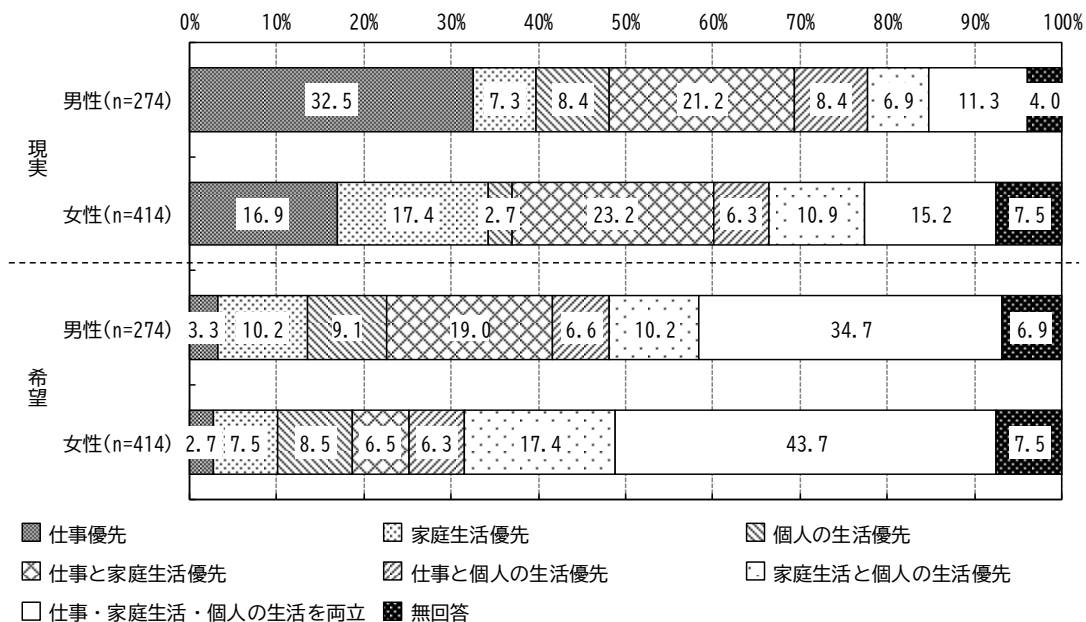
男性の育児・介護休業について、女性は9割が取得した方がよいと考えているが、そのうち約半数(全体の4~5割)は「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」と考えている。

男性が育児・介護休業を取得しやすくするためには、労働環境の整備のほか、賃金やキャリアに影響がないようにすることが必要と考えられる。

5 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 仕事・家庭生活・個人の生活の優先度の現実・希望

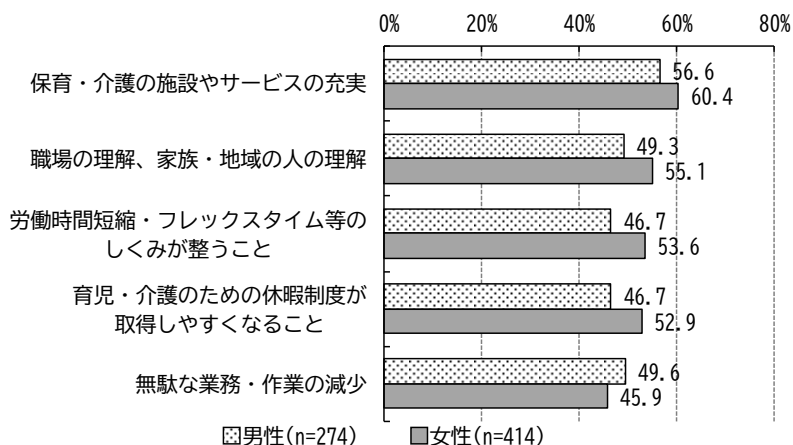
問10 生活の中での、仕事・家庭生活・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度についてお伺いします。あなたの「現実(現状)」に最も近いもの、「希望」に最も近いものを、1つずつお答えください。【項目ごとに〇は1つずつ】
※職業に就いていない方は、家庭生活と個人の生活の関係についてお答えください。



前回調査と比較すると仕事を優先せざるを得ない人が少なくなり、仕事とそれ以外の時間のバランスを取れている人が増えている。ただし、仕事を優先せざるを得ない人は多く、家庭生活や個人の生活よりも優先されていることが伺える。

(2)ワーク・ライフ・バランスを進めるための重要なこと

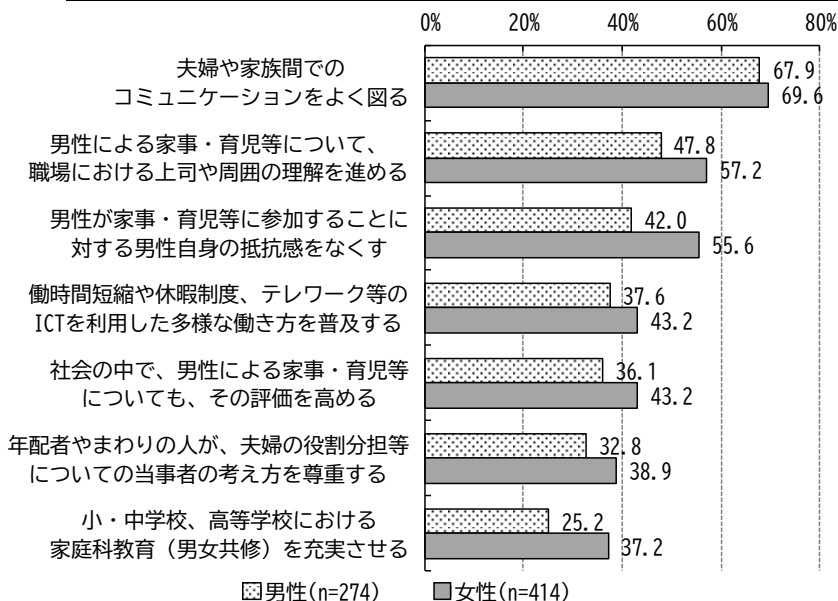
問12 あなたは、社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を進めるために、どのようなことが重要だと思いますか。【〇はいくつでも】



ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、家庭外に育児・介護を分担できる環境を求めていると考えられる。ただし、働いている場合には業務の効率化が求められてもおり、労務環境と福祉サービスの両面での支援が求められていることが見て取れる。

(3)男性が家事、子育て、介護、地域活動等に参加するために必要なこと

問13 あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

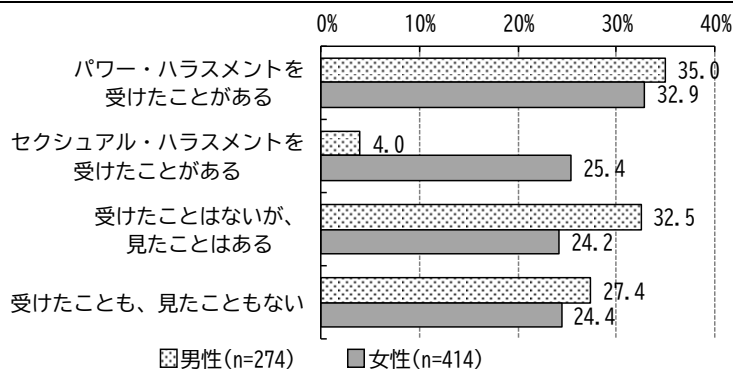


男性・女性ともに、男性の家事・子育て等への参加にあたっては、家庭や労働環境、また男性自身の意識が課題と感じていることが分かる。ただ、女性において家庭科を男性も学ぶことが必要と考えられており、子どもの頃からの教育が必要とされていると考えられる。

6 人権について

(1)ハラスメントの経験

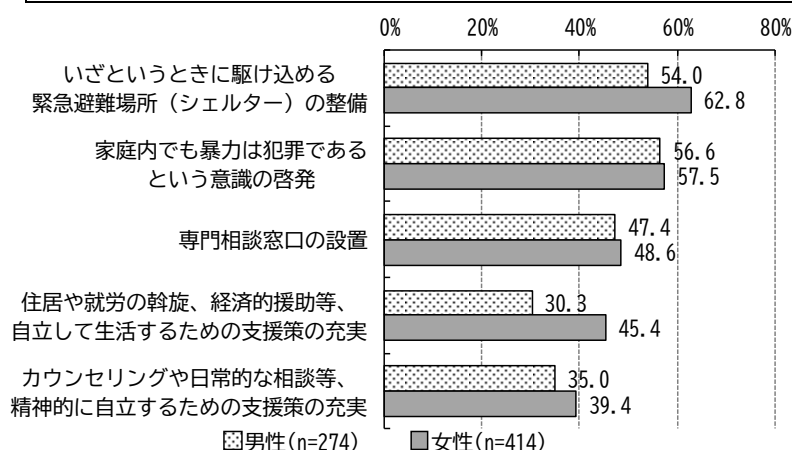
問14 あなたは、職場や学校等でハラスメントを受けたことはありますか。【〇はいくつでも】



女性の4分の1がセクシュアル・ハラスメントを経験しており、男女差が顕著である。

(2)暴力防止・被害者支援のために必要なこと

問18 あなたは、配偶者や恋人等のパートナーからの暴力の防止および被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。【〇はいくつでも】

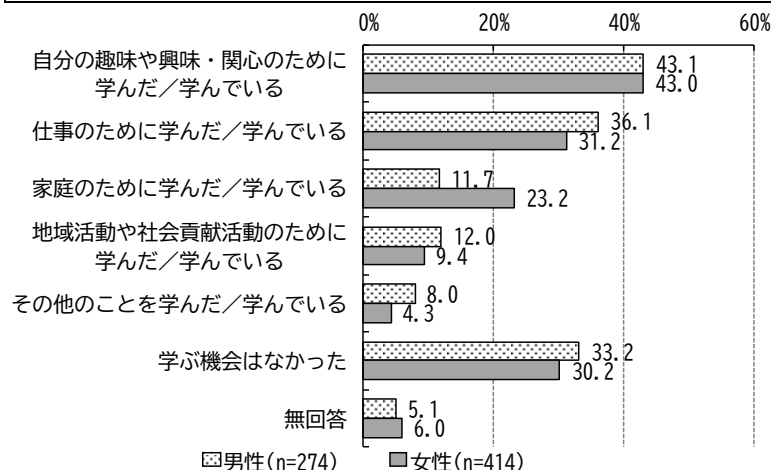


男性・女性ともに「いざというときに駆け込める緊急避難場所(シェルター)の整備」が最も多く、次いで「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」、「専門相談窓口の設置」が続く。性別による違いはみられないが、総じて女性の方が対策を必要としている。

7 地域活動等について

(1)自主的な学習活動

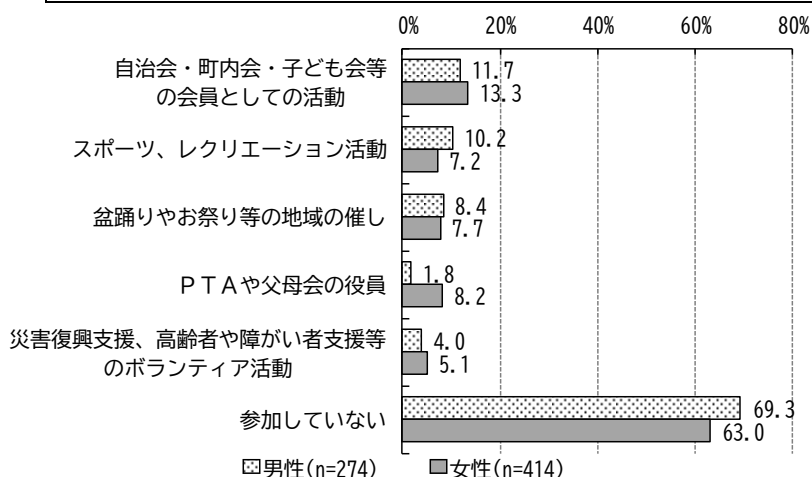
問19 あなたは、過去1年間で自主的に学んだことがありますか。【〇はいくつでも】



学んでいる人の割合は男性・女性で大きな差はないが、学習内容をみると女性の方が家庭のために学んでいることが分かる。特に女性の30~40歳代で家庭のために学んだ人が多くなり、家事・育児を負担する上での学習行動と推察される。

(2)地域活動や社会貢献活動

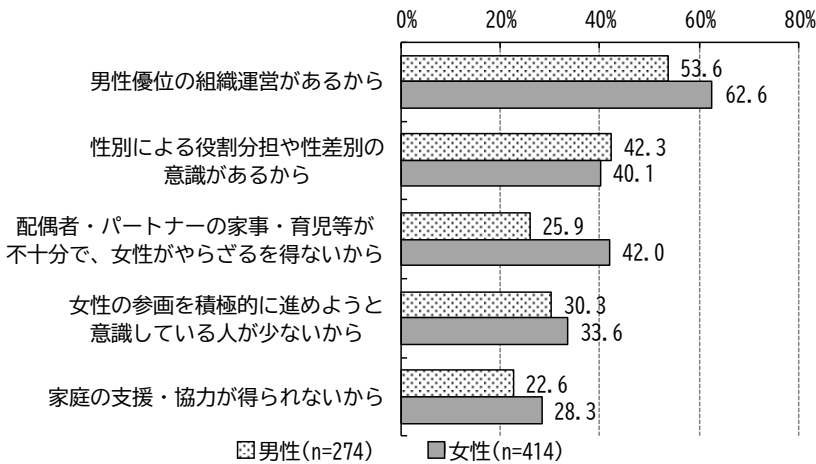
問20 あなたは、現在、何らかの地域活動や社会貢献活動等に参加していますか。【〇はいくつでも】



地域活動への参加はやや女性の方が多いが、いずれも3割程度である。女性は年代が上がるにつれて参加するようになるが、男性においては定年退職する年代(60歳代)であっても地域活動に参加していない人が多い。

(3)政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由

問23 あなたは、地域活動をはじめ、政治や企業活動等、あらゆる分野において、政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。【〇はいくつでも】

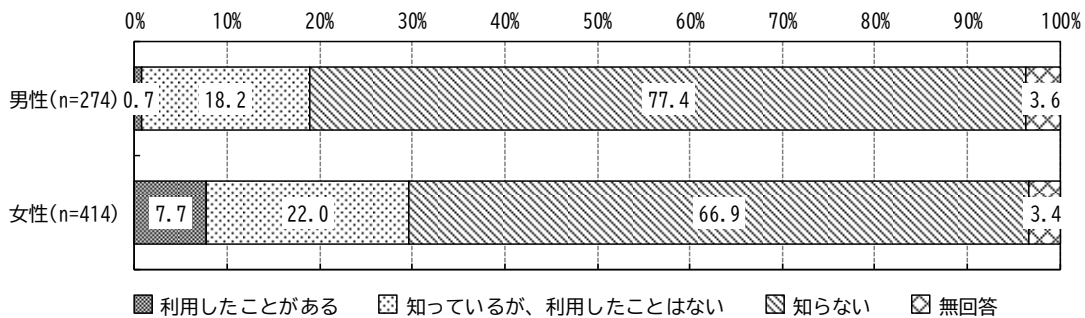


女性では家事・育児等を分担することを地域参加促進に必要なこととして挙げていることから、女性の社会参画には家庭への男性の参画が求められていると考えられる。

8 男女共同参画の取り組みについて

(1)区の取り組みの認知

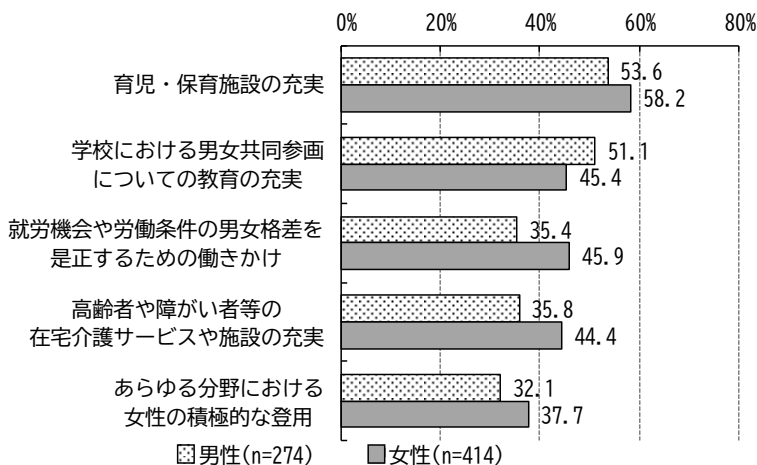
問24 あなたは、大田区の大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」を知っていますか。また利用したことはありますか。【〇は1つ】



エセナおおたは女性の3割程度が名前を知っているが、男性には女性ほど認知されていない。

(2)区に求める取り組み

問30 あなたは、男女共同参画社会の実現を図るために、今後、区はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。【〇はいくつでも】

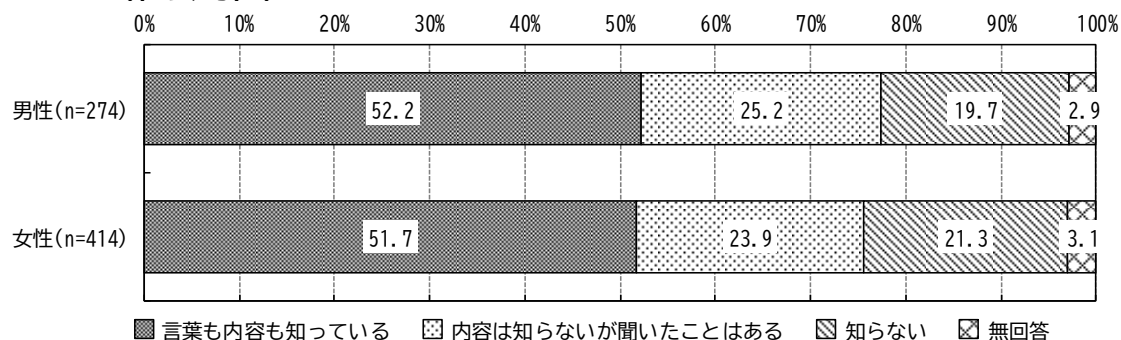


男性・女性ともに育児・保育施設を家庭外に求めており、育児が女性の社会参画の課題であることが伺える。また、女性においては労働環境・労働条件の整備も求められている。

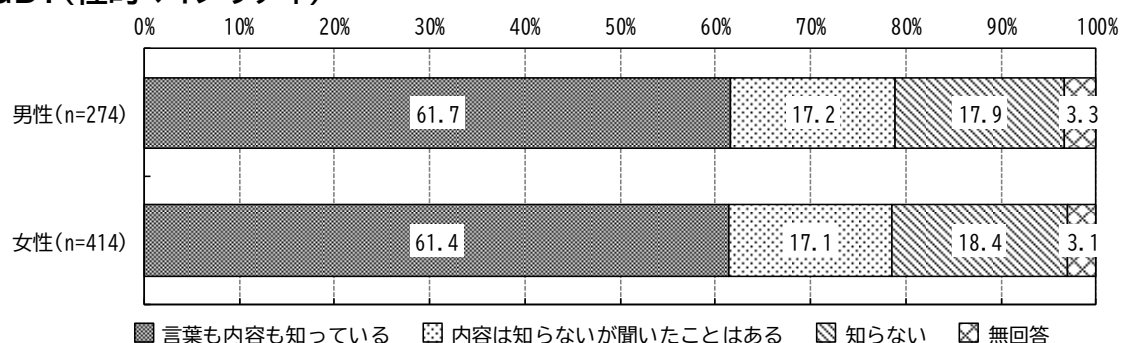
(3)性の多様性に対する認知

問26 あなたは、次の（ア）・（イ）の用語を知っていますか。【用語ごとに○は1つずつ】

(ア)ジェンダー(社会的性)



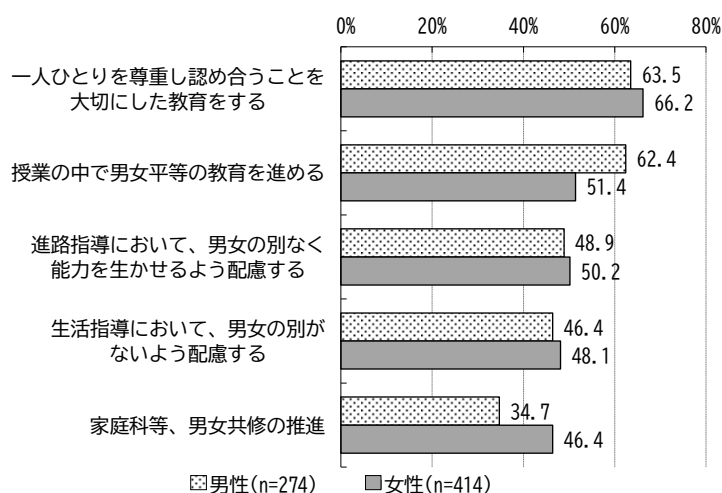
(イ)LGBT(性的マイノリティ)



性の多様性に対する認知は社会的に浸透している。

(4)学校教育の場で力を入れるべきこと

問31 あなたは、学校教育の場で、男女平等・男女共同参画を考えていく場合、どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。【○はいくつでも】



女性において男性が家庭科を習うことを求めており、男性の家事・育児への協力を求めていることが伺える。

大田区男女共同参画に関する意識調査 報告書【概要版】(令和2年3月)
 発行：大田区総務部人権・男女平等推進課
 大田区蒲田五丁目13番14号 電話 03-5744-1610(直通)